

第 125 回 計測技術委員会議事録

日 時 平成 22 年 1 月 22 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30

場 所 電気倶楽部 B 会議室

出席者 委 員 長 田辺 (電中研)

委 員 伊澤 (菊水電子)、岩佐 (産総研)、木本 (佐賀大)、小平 (日電検)
竹内 (横河電機)、仲嶋 (三菱電機)

幹 事 作本 (日電検)、大谷 (アンリツ)

幹事補佐 白井 (日電検)

資 料

- 125-1 第 82 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会報告
- 125-2 平成 22 年度 計測技術委員会活動計画三次案
- 125-3 平成 22 年度 計測研究会開催予定三次案
- 125-3-1 平成 22 年度東京支部連合研究会に関する回答
- 125-4 平成 21 年度 計測技術委員会活動状況
- 125-5 平成 21 年度 計測研究会開催状況
- 125-5-1 計測研究会プログラム (2 月開催分)
- 125-5-2 計測研究会プログラム (3 月開催分)
- 125-5-3 研究会企画連絡シート (5 月開催分)
- 125-5-4 研究会運営の手引き
- 125-6 平成 21 年優秀論文発表賞候補者
- 125-6-1 平成 21 年電気学会 A 部門論文発表賞 A 賞割当数
- 125-7 Instrumentation and Measurement (IM)
- 125-8 2009 年 Chapter 会計報告
- 125-9 論文特集号提案依頼

議 事

1. 議事録の確認

- ・ p. 2 ↓ 14 「報告」を「紹介」に訂正した後、承認された。

2. 白井幹事補佐より、10 月 22 日に開催された運営委員会の報告があった。

イ. 計測技術委員会委員交替について

- ・ 当技術委員会から申請した山崎委員の退任が承認された。

ロ. 公開シンポジウム

- ・ 平成 22 年 4 月 2 日に東京電力史料館において開催される。対象は小 (中) 学生 180 名で、史料館の見学やサイエンスショーが行われる。

ハ. 優秀論文発表賞

- ・ 優秀論文発表賞の受賞は奨学金返還免除の際に有利となるため、受賞決定までのスケジュールを検討する。

3. 平成 22 年度活動計画並びに計測研究会開催予定二次案

作本幹事より資料 125-2 および 125-3 に基づき、平成 22 年度活動計画並びに計測研究会開催予定三次案について説明があった。

- ・ 東京支部連合研究会は 8 月 30 日、31 日に工学院大学で開催される。

- ・見学会は2回を予定するが、日程等により1回となる可能性もある。
- ・各研究会の担当委員は次のとおりとする。

開催年月	テーマ	担当委員
平成 22 年 5 月	計測一般	作本、白井
平成 22 年 6 月	電磁波計測および一般	田辺、黒川
平成 22 年 7 月	遠隔計測および一般	佐山、仲嶋
平成 22 年 9 月	計測一般	岩佐、大谷、作本
平成 22 年 10 月	温度計測および一般	小平、白井
平成 22 年 11 月	計測一般	木本、大谷、白井
平成 22 年 12 月	生体計測および一般	田辺、長井
平成 23 年 2 月	光応用計測および一般	大谷、小野、竹内
平成 23 年 3 月	応用磁気計測および一般	小平、白井

- ・7月の「遠隔計測および一般」は神戸開催を予定する。また、10月の「温度計測および一般」は2月の「光応用計測および一般」と同時期の開催を検討する。
- ・11月の「計測一般」は、論文投稿の協力を産総研九州センターにお願いしてはどうか。
- ・新しい投稿システムに対応させるため、次年度は二次案で担当委員を決定したい。

4. 平成 21 年度活動状況

作本幹事より資料 125-4 および 125-5 に基づき、平成 21 年度活動状況について報告があった。

- ・資料 125-4 の 11 月の発表件数は 13 件に訂正する。なお、平成 21 年の申込件数は 74 件で、2 件の欠番があったため発表件数は 72 件となった。
- ・「光応用計測」と「温度計測」は 2 月 2 日、3 日に北海道大学で開催する。なお、「光応用計測」は光応用・視覚技術委員会と合同開催となる。
- ・3月の「応用磁気計測」は新潟で開催するが、1件欠番となり8件となった。
- ・5月の「計測一般」は5月21日に岡山市内で開催を予定する。
- ・電気学会の研究会運営手引きによれば、会場費などの研究会開催に係る補助は1日あたり3万円までとなっている。これを超える場合は部門会計の了承が必要となる。

5. 優秀論文発表賞候補者

白井幹事補佐より資料 125-6 に基づき、計測研究会の優秀論文発表賞候補者について報告があった。

- ・平成 21 年の計測技術委員会への割当ては 1 件で、繰り越しは 0.02 となった。
- ・採点を集計した結果、候補として日電検の堤氏を、次点候補として日本大学の松村氏を推薦した。

6. EINA マガジン

田辺委員長より資料 125-7 に基づき、EINA マガジンに掲載された当技術委員会の活動について説明があった。

7. IEEE Chapter 会計報告

作本幹事並びに大谷幹事より資料 125-8 に基づき、2009 年の Chapter 会計などについて報告があった。

- ・ Chapter 支援ガイドラインによれば、主催・共催の場合のみ支援を受けることができる。
- ・ 会員になる必要はあるが、若手論文賞などに対する賞金等の援助は可能である。
- ・ 学生を対象とした IEEE 主催の研究会を開催する方法もある。例えば、1 日目は計測研究会、2 日目は IEEE 主催研究会としてもよいのではないか。
- ・ 平成 22 年末までに概略をまとめることができれば、資料として提出したい。

8. 論文特集号

田辺委員長より資料 125-9 に基づき、論文特集号について説明があった。

- ・ A 部門編集委員会から論文特集号の割当てが届いている。当技術委員会は平成 23 年 1 月～3 月号が対象となっている。
- ・ 特集論文のテーマは「快適社会を支える計測」とし、平成 23 年 3 月号を希望掲載号とする。
- ・ 提案内容は幹事団で作成し、小野委員を交えて検討する。

9. その他

岩佐委員より、1 月 28 日、29 日に開催される NMIJ 成果発表会の紹介があった。

次回予定

日 時 平成 22 年 4 月 23 日 (金)

場 所 未定